

開拓から現代まで 西区の歴史を「月」で振り返る

※ 写真提供 琴似屯田歴史館資料室、日本道路公団北海道支社、日本郵政公社札幌西郵便局、北大図書館（五十音順）
参考文献 琴似町史、さっぽろの足、札幌百年のあゆみ、さっぽろ文庫7、33、46、76、79、大都市への軌跡



道内最初の競馬場（明治11年）

《琴似街道で札幌初の競馬》

【明治5年（1872年）】

開拓間もない明治5年9月14日、開拓当時銭函街道とも琴似街道とも言われた旧国道5号線で競馬が行われました。現在の北海道神宮の祭典に参拝する際、近隣の農民が集まり、直線で持ち馬の競争として行いました。現在の「競馬」とは趣が違いますが、これが札幌の競馬の始まりだと言われています。



地下鉄琴似駅付近（昭和51年）

《西区の人口20万人突破》

【昭和51年（1976年）】

昭和47年の区制施行から4年、昭和51年の8月に西区の人口は20万人を突破しました。この時の人口には現在の手稲区の人口も含まれていますが、その後の発展に伴い人口も増加を続け、平成元年に手稲区が分区したあと、現在は再び20万人以上が西区に居住しています。



八軒3条の信号機（現在）

《市内初のボタン式信号設置》

【昭和43年（1968年）】

平成16年3月末現在、歩行者の安全のために、道内には4,978基の押しボタン式信号が設置されています。市内では、昭和43年7月23日、八軒小学校のスクールゾーンである琴似栄町通上の八軒3条に初めて設置されました。なお、昭和43年末の道内における設置数は59基。実に84倍にも増加しています。



銭函インター付近（昭和51年）

《札幌自動車道開通》

【昭和46年（1971年）】

昭和36年3月末に149,183台だった道内の自動車台数は10年後の昭和46年3月末にはその約6倍と、飛躍的に増加しました。このような状況を反映して、昭和46年12月4日、札幌西～小樽間の札幌自動車道が開通しました。当初は片側1車線での供用でしたが、昭和48年には現在の形で完成を見ました。



電灯と電器店の広告

《西区に初めて電灯》

【大正4年（1915年）】

西区で最初に電灯が点灯されたのは琴似地区で、大正4年の11月ごろだと言われています。当時は石油ランプを用いれば電気の半額ほどで明かりが得られたことから、住民は導入に積極的ではなかったといいます。何事も始めるということは大変ですね。



市立札幌療養所（開設当時）

《市立札幌療養所開所》

【昭和5年（1930年）】

現在の独立行政法人国立病院機構西札幌病院の前身、市立札幌療養所が国の許可を得て山の手に開所したのは昭和5年10月10日のことです。ちなみに、明治9年には屯田兵の診療にあたるため、札幌病院（市立札幌病院の前身）の琴似出張所が設けられており、これが西区で最初の医療機関と言われています。

「月」に着目して見ても、西区にはいろいろな歴史がありました。今年5月は屯田兵入植からちょうど130周年。住民の方々の手で記念行事が開催される予定で、「8月」にはまた新たな歴史が刻まれることとなります。

区民の皆さんも歴史の証人として、ぜひご参加ください。